

錦帯橋を中心とした  
錦川両岸地域のまちづくり将来ビジョン

平成 26 年 4 月

岩 国 市

## —目 次—

1. まちづくり将来ビジョンの目的	1
2. まちづくり将来ビジョンの対象区域	1
3. 上位・関連計画	3
4. 関連する事業等	9
5. 錦帯橋を中心とした錦川両岸地域の特徴	10
6. まちづくりの目標とテーマ	16
7. まちづくりの方針	17
8. まちづくりの実現にむけて	28

## 1. まちづくり将来ビジョンの目的

錦帯橋を中心とした錦川兩岸地域は、清流錦川、城山等の自然や城下町の歴史を受け継ぐまちなみなど、先人たちが守り育ててきた貴重な財産を有しています。

また、錦帯橋周辺では市民が自然や歴史・文化を身近に感じることができるとともに、観光地の賑わいも感じることができます。

本地域では、これらの特徴を活かし、誰もが「住んでよし、訪れてよし」と感じることができる魅力あるまちづくりを一体的に進めるため、「まちづくり将来ビジョン」を策定します。



錦帯橋を中心とした錦川兩岸地域

## 2. まちづくり将来ビジョンの対象区域

錦帯橋を中心とした錦川兩岸地域で、城山をはじめとした山々と清流錦川の美しい自然、城下町としての歴史・文化がおりなす美しい風景を形成する区域を対象とします。

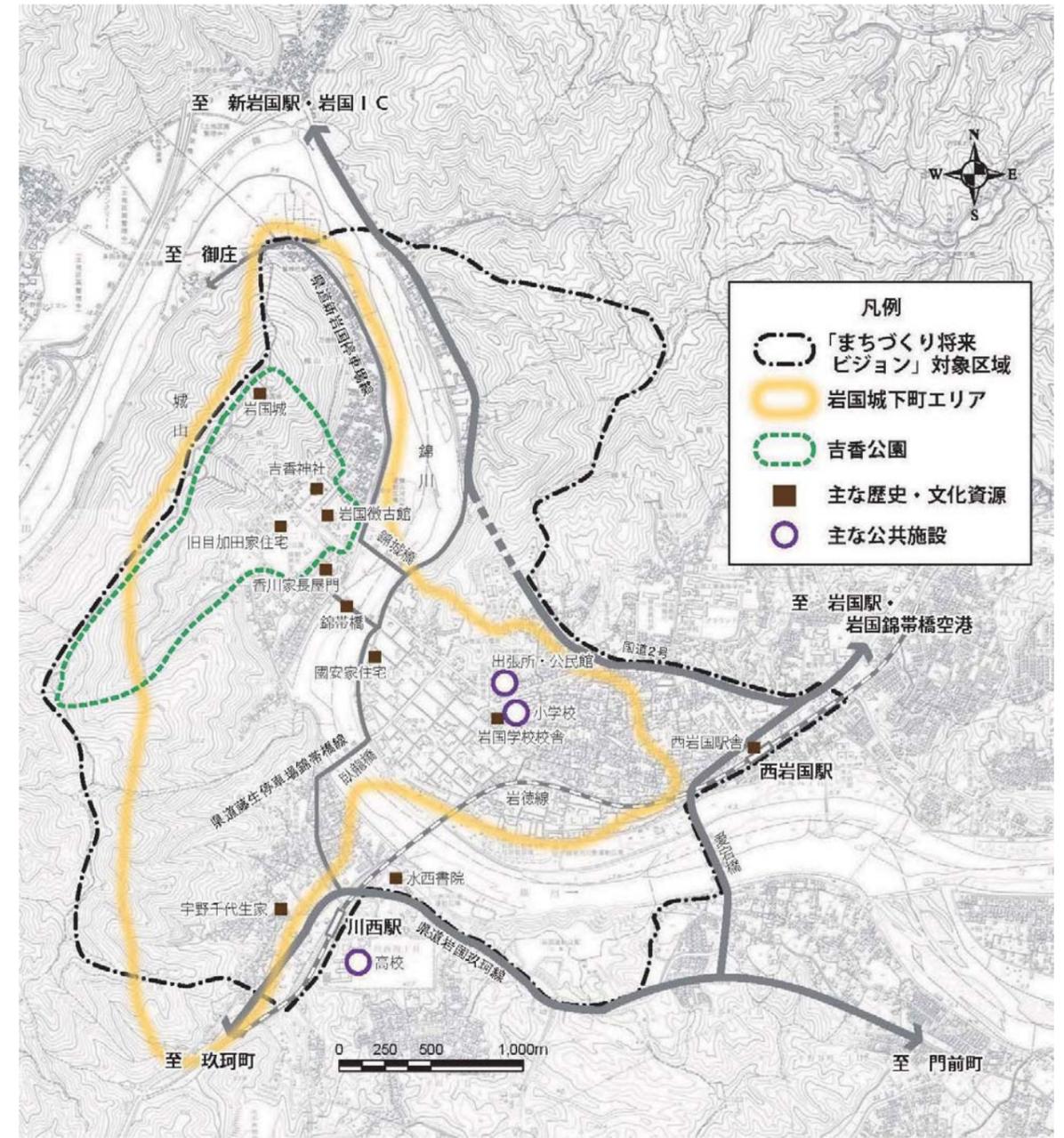
この区域は、城山と錦川を天然の要害として築かれたかつての岩国城下町をベースに、歴史的な資源とまちなみが一体となった美しい風景を形成するとともに、地域の歴史と文化を受け継いだ暮らしの場が継承されている区域です。

本区域では、風景としてのまとまりや歴史性を活かし、土地利用の状況、道路・交通環境等をふまえたまちづくりを一体的に進めていく必要があると考えます。



山に囲まれた錦川兩岸の一体的な風景（臥龍橋からの眺望）

## 「まちづくり将来ビジョン」の対象区域



## (1) ゾーニング

地域の特徴を活かしながら、実効性の高いまちづくりを進めるため、本地域を4つのゾーンに区分し、市街地を構成する3種類の道路を位置づけます。

### ■樹林地ゾーン

城下町として築かれたまちを取り囲むようにそびえる城山をはじめとした山や丘陵地で、緑豊かな森が形成されている区域。

### ■錦川ゾーン

豊かな水を湛える錦川の水辺と河川敷、及び名勝錦帯橋で形成される区域。

### ■重点市街地ゾーン

歴史的資源が多く集積し、かつ歴史的な基盤及びまちなみをはじめとした城下町の歴史性を顕著に受け継ぐ市街地が形成される区域。

### ■周辺市街地ゾーン

歴史的なつながりや日常生活圏として、重点市街地ゾーンと深い関わりを持つ住宅を中心とした市街地が形成される区域。

## (2) 道路

### ■広域幹線道路

本市の骨格を担う幹線道路で、広域的なネットワークを形成している道路。また、本地域において、広域交通拠点である山陽新幹線新岩国駅やJR岩国駅、岩国錦帯橋空港や岩国インターチェンジからのアクセスを支える重要な路線。

### ■都市幹線道路

本市の骨格を担う幹線道路で、市内の各地域間での移動・交流を支える道路。

### ■地域幹線道路

地域内の様々な活動を支える幹線道路。また、本地域において、広域幹線道路や都市幹線道路から地域内へのアクセスを支える重要な路線。



### 3. 上位・関連計画

#### (1) 岩国市総合計画

「岩国市総合計画（計画期間：平成20年度～29年度）」は、平成18年3月の岩国広域圏8市町村の合併を経て、平成19年8月に策定されました。

市政運営の基本的指針である「岩国市総合計画」においては目標とする将来像として「豊かな自然と都市が共生した活力と交流にあふれる県東部の中核都市—自然・活力・交流のまちづくり—」を掲げています。さらに、その実現に向けて、以下の6つの基本目標と、その基本目標に基づいて様々な施策目標を設定しています。

#### ■ 6つの基本目標

1. 交流と連携の活発なまち
2. 豊かな自然環境と都市が共生するまち
3. 誰もが安心して暮らせるまち
4. 多様な産業の活力にあふれたまち
5. 豊かな心と生き抜く力を育む教育文化のまち
6. 市民と行政の協働・共創のまち

#### ■ 本事業に関連する主な施策目標

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1-2 身近な道路を安全に利用できる             | ★印：施策や事業において本ビジョンに特に関連が深いと思われる項目 |
| 1-5 市民や来訪者が多様な交流を楽しんでいる★       |                                  |
| 2-3 森林や農地等が良好に管理されている          |                                  |
| 2-4 川や海が美しく保たれ、おいしい水に恵まれている    |                                  |
| 2-5 快適に暮らせる住宅や安らぎのある公園が整っている   |                                  |
| 3-3 犯罪や事故等から市民の安全が守られている       |                                  |
| 4-4 商店街等がにぎわい、地場産業に活気がある★      |                                  |
| 4-5 市内各地が多くのお観光客でにぎわっている★      |                                  |
| 5-3 郷土の歴史や伝統文化が受け継がれている★       |                                  |
| 6-1 地域のつながりが保たれ、市民活動が活発に行われている |                                  |

また、これらの施策目標の達成に向けた必要な施策・事業の中には、「錦帯橋世界文化遺産登録推進事業」「岩国地区伝統的建造物群保存地区整備事業」「吉香公園四季の花整備事業」「自治会館・コミュニティセンター整備事業」「魅力ある商店街づくり事業」などがあげられています。

## (2) 岩国市都市計画マスタープラン

「岩国市都市計画マスタープラン（基準年次-平成 17 年、目標年次-平成 37 年）」は、都市の将来像とその将来像の実現に向けた都市づくりを計画的に進めて行くことを目的に、平成 23 年 12 月に長期的かつ総合的な都市づくりの方針として策定されました。

岩国市都市計画マスタープランでは、錦帯橋周辺等の歴史的まちなみを有する「西岩国地域」は、“錦川と山の緑に包まれた歴史と文化がかほる交流のまち”を将来像として、下記のようなまちづくりの目標を定めています。

### ■西岩国地域のまちづくりの目標

#### ○歴史と自然が融合した魅力ある城下町の保全・整備

清流錦川にかかる日本三名橋である錦帯橋を中心とした岩国・横山地区には、河川沿いの桜並木や、風情あるまちなみからなる歴史・文化と自然が調和した魅力ある景観が見られます。この美しく魅力ある城下町の景観は、市民の貴重な財産であり、次世代へ継承するために、適切な保全・整備を図ります。

#### ○多くの人を訪れる滞留型の観光拠点の形成

錦帯橋を中心に、錦川の両岸には歴史・文化・自然からなる多様な資源が多く分布しています。多くの人を訪れ、楽しく回遊できる市街地環境の整備を進め、滞留型の観光拠点の形成を図ります。

#### ○広域交通のアクセスを活かした交流の促進

本地域は、山陽新幹線新岩国駅と山陽自動車道岩国インターチェンジを有しており、広域的な交通利便の高い地域です。この交通特性を活かして、中心市街地や観光拠点とのアクセスを向上し、広域交流の促進を図ります。

また、まちづくりの目標を実現するための方針として、

- ① 重要な歴史資源である錦帯橋の保全・活用を図ること
- ② 岩国・横山地区では、歴史的なまちなみの保全を図り、風情ある景観や自然環境との調和を図ること
- ③ 錦帯橋周辺では歴史・文化と自然が調和した本市を代表する観光拠点としての整備・保全を図ること

などをあげています。

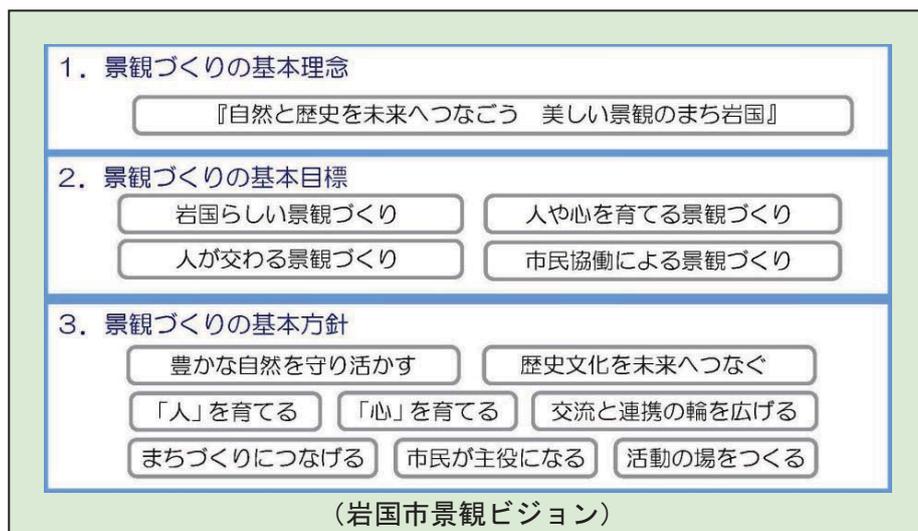
・岩国市総合計画の序論において、西岩国地域に対しては①清流「錦川」と名勝「錦帯橋」および周囲の城下町のまちなみの文化的景観が時代を超えて受け継がれていること、②今もなお、市民の誇り、市の象徴となっていること、③市民アンケートの結果からその活用に期待が高くなっていること、の3点が取上げられています。岩国市のまちづくりの中でも、本地域が有する歴史・文化・自然を継承・活用することへの期待が高まっていることがうかがえます。

### (3) 岩国市景観ビジョン

岩国市では、これまでの取組を活かしながら、市内の多様な景観特性に合わせた独自の景観行政を行っていくため、平成 19 年 6 月 1 日に「景観法」に基づく景観行政団体へ移行しました。

岩国市は、平成 22 年 3 月に、景観法の理念に基づく、岩国市の景観のあり方についての基本的な方針や施策展開の方向性を示す「岩国市景観ビジョン」を策定しました。

「岩国市景観ビジョン」における「景観」とは、『岩国市の「自然」や「歴史」、そこに生まれてきた「人の心と生活」をあらわすもの』と定義しています。



#### (4) 岩国市景観計画

岩国市は、平成 24 年 11 月に、「岩国市景観ビジョン」の基本理念である「自然と歴史を未来へつなごう 美しい景観のまち岩国」の実現に向け、景観法に基づく景観計画を定めました。「自然と歴史を未来へつなごう 美しい景観のまち岩国」を景観まちづくりの基本理念とし、景観形成の基本目標「多様な魅力があふれる、岩国らしい景観まちづくり」のもと、

- ① 豊かな自然を守り・活かす
- ② 歴史文化を未来へつなぐ
- ③ 快適なまちを守り・創る

を基本方針としています。

本事業に関連する方針は下記の通りです。

#### ■ 「市街地の景観ゾーン（岩国地域）」における本事業に関連する景観まちづくりの方針

##### 方針 1 豊かな自然を守り・活かす

- 市街地周辺の山地・丘陵地の山並みと緑を守り、四季折々の豊かな自然を感じられる景観づくりをめざします。
- 錦川、今津川、門前川の親水性を高め、川下のクスノキ巨樹群等の沿川の景観資源の保全を図り、市街地に潤いをもたらす景観づくりをめざします。
- 本市のシンボルである錦帯橋を中心とした錦川周辺では、良好な自然景観を守る取組を推進します。

##### 方針 2 歴史文化を未来へつなぐ

- 岩国城下町の伝統を受け継ぐ錦帯橋、社寺、岩国のまちなみ、旧街道等の歴史的景観資源を守り育てるとともに、住民、市民、来訪者に魅力的な景観づくりをめざします。
- 錦帯橋左岸の岩国地区周辺は、大明小路の武家屋敷や岩国七町の商家等、地域を代表する歴史的なまちなみを有しており、住民との協働のもと、これらの景観を守り育てる景観まちづくりを展開していきます。

## ■重点地区（横山地区）における景観まちづくりの方針

### 方針1 豊かな自然を守り・活かす

- 市街地から城山へと続く緑を守り、四季折々の豊かな自然を感じられる景観づくりをめざします。
- 史跡をつなぐ堀割と菖蒲園の水辺景観を保全します。
- 錦川の流れと護岸、河川敷の竹林が形成する河川景観を保全します。

### 方針2 歴史文化を未来へつなぐ

- 岩国城下町の歴史を受け継ぐ建造物、まちなみ、堀割等が形づくる景観を守り育て、歴史文化を未来へつなぐ景観づくりをめざします。

### 方針3 快適なまちを守り・創る

- 錦帯橋周辺や城山から眺望されるまちなみ、いぶし銀の和瓦屋根と建物の高さが整った統一感のある家なみを守り育てます。
- 城下町の歴史的景観を継承し、和風の佇まいを基本とするまちなみ景観をめざします。
- 景観まちづくりを通じて、道路や公園、歩行者ネットワーク等の住みやすい都市基盤整備を図るとともに、公共施設の修景を図り、快適な住環境の向上をめざし

## ■重点地区（横山地区）の景観区別景観まちづくりの方針

### ○歴史散歩地区：

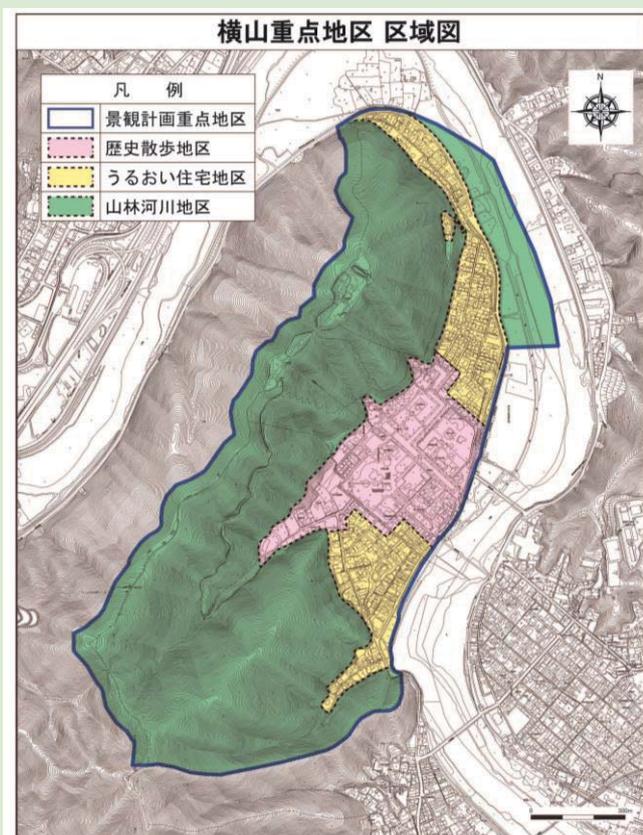
錦帯橋から続く多くの歴史的景観資源と観光資源を活かした景観づくりをめざします。

- ・ 錦帯橋から続く錦川土手や吉香公園、香川家長屋門、吉川史料館、紅葉谷等、横山重点地区の主要な歴史的景観資源を中心としたまちなみ景観を守り育てます。
- ・ 錦帯橋橋詰周辺は、多くの来訪者が訪れる場としてにぎわいの創出を図るとともに、周囲の歴史的雰囲気配慮した建築物や屋外広告物の誘導等により、歴史的なまちなみ景観の形成を図ります。

### ○うるおい住宅地区：

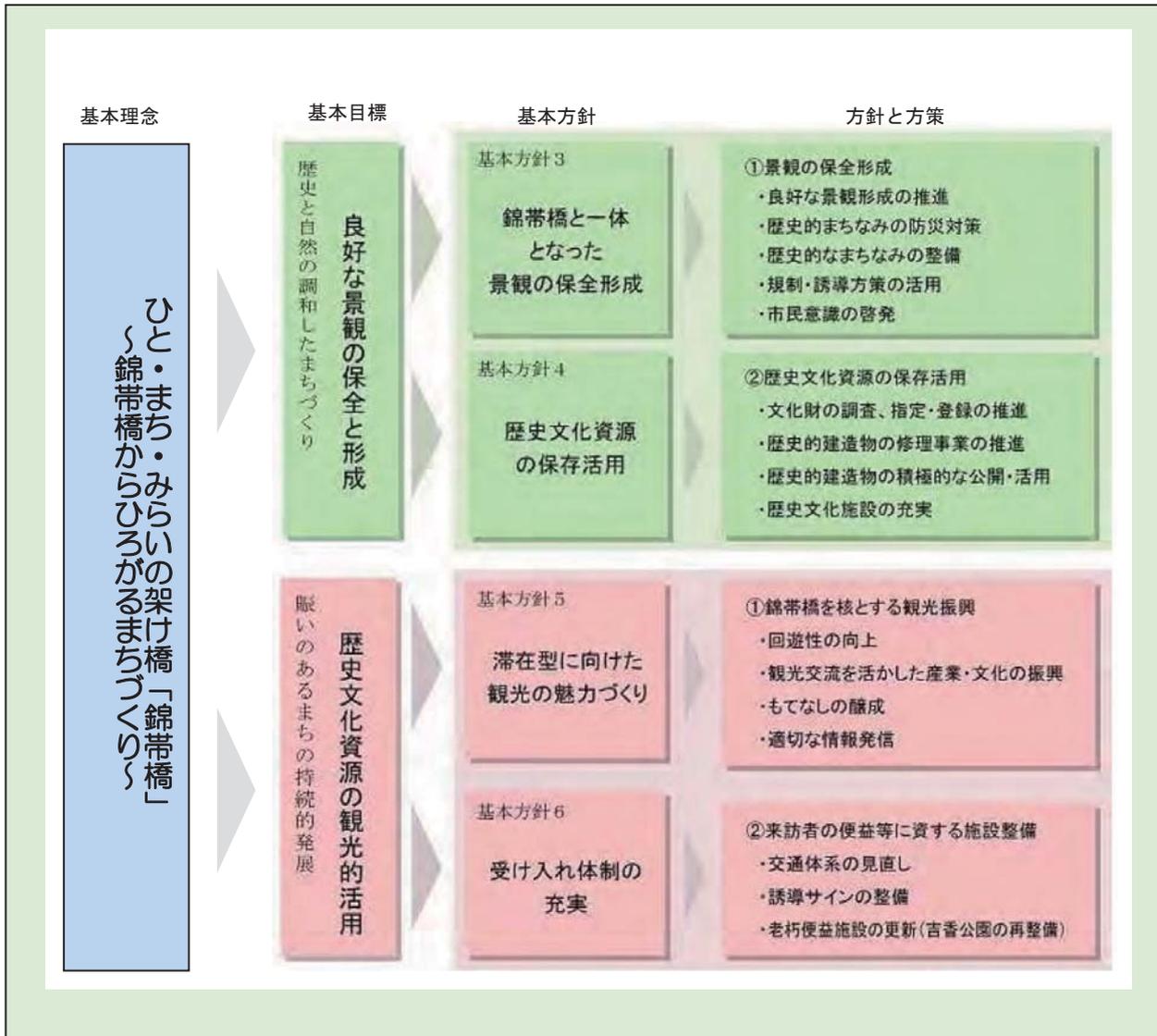
周辺の歴史的景観に配慮した閑静な住宅地の景観づくりをめざします。

- ・ 建物の高さや形態意匠に配慮し、周辺景観に調和した和風の佇まいによるまちなみ景観の形成を図ります。
- ・ 錦帯橋や対岸から望む錦川沿いは、町屋の面影を残す家なみが続き、軒先と瓦屋根が揃ったまちなみの景観を守り育てます。



### (5) 錦帯橋みらい計画 (基本方針)

岩国市は、平成 24 年 3 月に、都市計画、文化財保護、観光振興、農林振興など多岐にわたる分野から、錦帯橋及び周辺地域において関連する施策や事業を共有し、横断的に連携を図るための基本的な考え方を示した「錦帯橋みらい計画 (基本方針)」を策定しました。次期の錦帯橋架替事業の円滑な実現化を図るとともに、各課で展開する各種施策や事業に反映し、錦帯橋および周辺地域の整備活用等を図ることとしています。



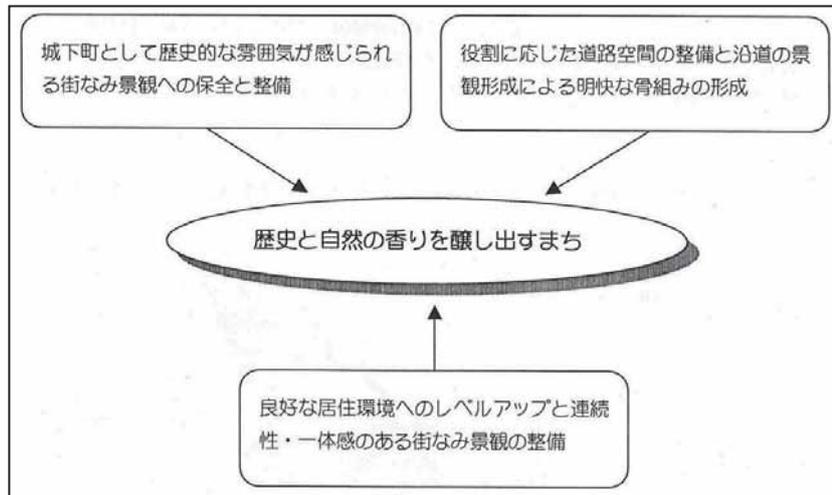
## 4. 関連する事業等

### (1) 横山地区街なみ環境整備事業

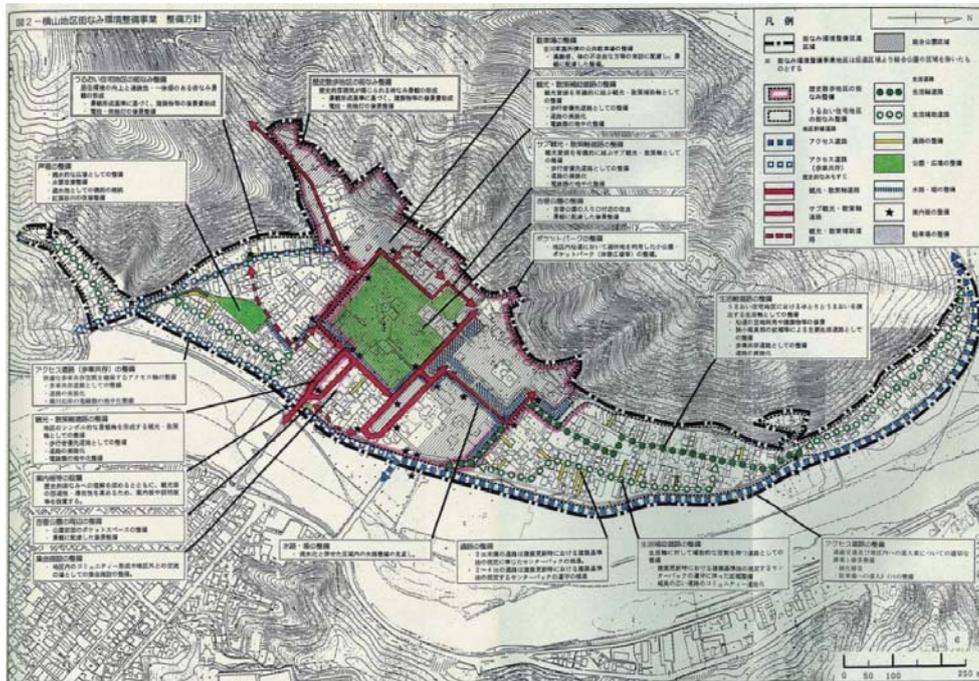
岩国市は、平成9年度から平成19年度まで横山地区街なみ環境整備事業に取り組み、観光地としての特色が強い区域を「歴史散歩地区」、住宅地を中心とした区域を「うるおい住宅地区」として位置付け、歴史性を活かした街なみと住環境の向上に向けた整備を進めてきました。



#### ■街なみ整備の基本方針



#### ■地区整備方針



## 5. 錦帯橋を中心とした錦川兩岸地域の特徴

### (1) 概況

#### ①地勢

- ・ 山口県最大の清流錦川を挟んだ兩岸に広がる地域で周囲を山々に囲まれ、中でも標高 210m の城山（横山）は約 400 年間伐採が禁止されてきた貴重な自然林を有しています。
- ・ 錦川は流域面積が広いため水量が豊富で水質も良く、魚類も豊富で、特に鮎は上・中流全水域に分布しています。

#### ②人口・世帯数、高齢化の動向

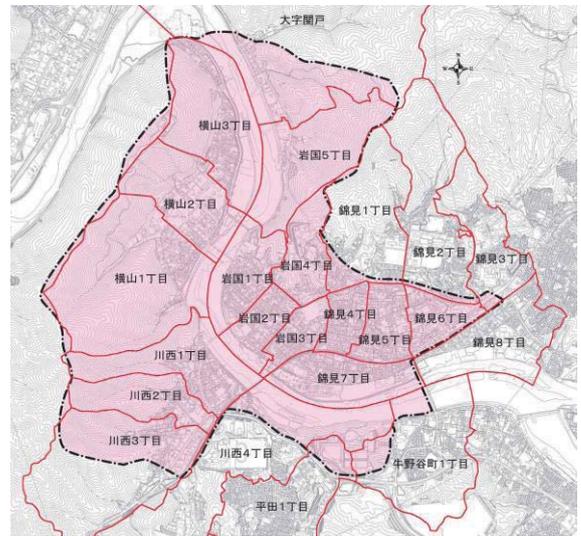
- ・ 過去 10 年の人口動向では、川西 2 丁目と岩国 3 丁目と横山 1 丁目が増加傾向にあります。
- ・ 過去 10 年の世帯数の動向では、岩国 3、4 丁目、横山 1、3 丁目、川西 2 丁目が増加傾向にあります。
- ・ 全体的に高齢化が進み、特に岩国 1、2、4 丁目と横山 2、3 丁目では高齢化率が 35% を超える状況にあります。

#### ③歴史

- ・ 吉川氏の入城をきっかけに、要害（岩国城）、御土居（政務所）、天然の外堀（錦川）と地形を巧みに利用し、錦川右岸の城山麓には家中及び上級武家の屋敷、左岸には家臣団の屋敷地と町屋、左岸の錦見（現在の岩国・錦見地区の一部）へ渡る交通の要衝として栄えた川西地区には、家臣団や武家の別邸が配置され、錦川兩岸にわたって城下町が形成されました。
- ・ 兩岸を往来するため、洪水に強い世界に類を見ない木造アーチ橋の錦帯橋が建設されました。

#### ④土地利用・建物の状況

- ・ 横山地区は吉香公園を中心に文教施設、錦川沿いに商業施設が分布し、その他は住宅地が分布しています。
- ・ 岩国地区は住宅と商業施設、公共公益施設が混在しています。
- ・ 川西地区や錦見地区は幹線道路沿いに商業施設が立地するものの、大部分が住宅地です。
- ・ 地域の大部分が木造建築物です。建築年代別の分布状況では、岩国 1、2 丁目に江戸～戦前の建物が特に集中して分布しています。



対象区域と町丁目

### ⑤法規制状況

- ・岩国1、2丁目は商業地域（80/400）、川西・錦見地区の一部は近隣商業地域（80/200）、岩国5丁目は第二種住居地域（60/200）、その他は、第一種住居地域（60/200）に指定されています。また、商業地域のうち、臥龍橋通り沿いのみが防火地域に指定され、その他の商業地域及び近隣商業地域は準防火地域に指定されています。
- ・錦帯橋及び河川の一部は国の名勝に指定されており、また錦帯橋から見渡せる範囲は風致地区に指定されています。
- ・市全域が景観計画区域に指定される中で、横山地区は重点地区に位置づけられています。
- ・地区内には複数の長期未着手の都市計画道路があります。

### ⑥道路交通環境と都市施設の整備状況

- ・国道2号と県道岩国玖珂線が地域内外を結ぶ幹線道路であり、地域内には河川沿いに県道新岩国停車場線と県道藤生停車場錦帯橋線が通っています。
- ・JR岩徳線が通り、錦見地区に西岩国駅、川西地区に川西駅が整備されています。
- ・公園は、吉香公園の他に、街区公園が岩国・錦見地区に各1か所、川西地区に2か所あります。
- ・公共下水道の整備状況では、錦川左岸にあたる岩国・錦見地区は、事業認可区域内であるものの、整備の目途は未定です。右岸にあたる横山・川西地区は計画区域内ではありますが、事業認可区域外になっています。

### ⑦歴史的な道と道路幅員現況

- ・横山1～3丁目と岩国1、2丁目を中心に近世の城下町の町割が残っています。
- ・歴史的な道の一部が都市計画道路に指定されているが、いずれも未整備路線です。

### ⑧観光動向と関連施設の分布状況

- ・岩国市全域及び錦帯橋への入り込み客数は減少傾向にある。地域内には車でのアクセスが基本で、河川敷駐車場や地区内の観光駐車場が利用されています。

## (2) 自治会や関係団体へのヒアリング結果から把握した住民意識

把握できた主な項目を、以下に列挙します。

### ①地区住民の意識

- ・第一に生活環境の向上を優先すべきだ。
- ・岩国地区が観光地として成り立っているという意識は低いが、まちなみを活かす方が良い。
- ・全体的に閑静で良好な住環境の住宅地という印象が強い。
- ・多くの著名人を輩出し、教育熱心な地区という印象が強く、「住みたい」小学校区としての人気は高い。
- ・人口減少は進んでいるが、土地利用更新による若い世代の転入が見られる地区もある。
- ・世代による意識のギャップを感じている。
- ・歴史性を大切にだけでなく、現代の生活環境の向上も目指さないといけない。
- ・美しい風景の中心である清流錦川や川岸の手入れ等、積極的な維持に取り組むべきだ。
- ・行政と地域住民とが協議できるテーブルがやっと出来た印象であり、今後も続けたい。
- ・宇野千代生家、水西書院、西岩国駅など地域の周辺部にも魅力的な資源はある。

### ②関係団体の意識

- ・コミュニティの広がり的大小さまざま、まちづくりに対する意識に差異がある。
- ・観光振興は岩国・横山地区の活性化には重要なテーマの1つであり、岩国独自の歴史、文化をもっとアピールしたい。

### (3) 錦川両岸地域の特徴のまとめ

#### ①岩国市のシンボルとして親しまれる地域

[天然の要害、城山や清流錦川がおりなす地形、岩国市の中心であった歴史性]

- ・ 県内最大の河川である清流錦川と、城山等に囲まれた地形が創り出す自然景観や、天守閣からの広がりのある眺望、春の花見、夏の花火、秋の紅葉狩り等、岩国のシンボルとして多くの市民に親しまれている場所です。
- ・ 岩国市の歴史を語る上での中心的な場所であり、歴史的な側面からもシンボル性を有しています。

#### ②住環境面において人気の高い地域

[緑に囲まれた良好な環境、教育熱心な地域性、人気のある校区]

- ・ 吉香公園を中心に四季の彩りを感じる、落ち着いた住環境が生まれ、高い魅力を有しています。市民からは、住環境が良好な住みやすい住宅地という印象が強く、若い世代の人口が増えている一面もあります。

#### ③古き良きコミュニティが残る地域

[顔の見える範囲での単位自治会、城下町としての歴史、継承されているコミュニティ活動]

- ・ 地域内には顔の見える範囲で多くの単位自治会が組織され、それをまとめる地区の単位として岩国・横山・川西・錦見の4つの地区自治会連合会が組織され、イベント等において地区間での連携・協力体制が築かれています。
- ・ 武家屋敷や旅籠、町屋（錦見七町）、寺町・問屋街といった町の歴史性や商業形態の違いによるコミュニティが残されています。また地区内の寺社とのつながりも強く、年中行事等の地域活動が受け継がれ、住民意識にも根づいています。

#### ④山口県内有数の観光地として賑わう地域

[県内有数の観光地、国指定名勝錦帯橋、観光客の賑わい]

- ・ 錦帯橋は国指定の名勝であり、美しい風景とあわせて県内有数の観光地としての賑わいを見せています。年間70万人前後の渡橋者数を誇り、岩国市並びに錦川両岸地域におけるまちづくりに欠かせない代表的な地域資源です。

#### ⑤文化的価値が評価される地域

[世界遺産登録の申出に向けた取組、歴史的まちなみ、景観保全関連の様々な施策]

- ・ 錦帯橋は、創建以来340年間架け替えを繰り返しながら受け継がれてきた世界に誇る資産です。その景観美に加え独特の架橋技術の高さが評価されています。

#### ⑥個性豊かな文化を有する地域

[いちすけ号、宇野千代のメッセージボード、著名人を多く輩出したまち]

- ・ 多くの著名人を輩出したことで知られ、現在も市民に親しまれています。いちすけ号や宇野千代氏のメッセージボード、課長島耕作が描かれたバスなどが市民に親しまれています。

#### (4) 特筆すべき特徴

地域の概況や住民意識をもとに、本地域が固有に持つ特筆すべき特徴を3つにまとめます。

##### ◆城下町としてまとまりのある風景

風景の基盤を形づくる地形／城下町として育まれた骨格



城山からの眺望



臥龍橋からの眺望

##### ◆暮らしの場として受け継がれてきた「まち」

「まち」が受け継いできた地域の環境／住み続けたいと思われる「まち」



暮らしを支える商店



伝統文化の継承

##### ◆城下町の歴史性を背景に育まれてきた錦川兩岸の異なる2地区の魅力

歴史的資源と自然の彩りが形づくる横山地区

職住が共存するまちの歴史と活力を感じる岩国地区



歴史と自然が形づくる魅力



職住が共存するまちの歴史と活力

(5)大切にしたいまちの魅力

錦川の水辺と葦、河川敷が創り出す自然美

川岸の美竹林や桜並木、背後にそびえる城山をはじめとした自然林などの植生が創り出す四季折々の彩り

穏やかな水の流れを湛えながら山間を緩やかに蛇行し瀬戸内海へと川幅を広げながら注ぐ錦川

鮎等の生息環境と近世から伝わる伝統漁法である鵜飼いの光景は、錦川の夏の風物詩

藩主吉川氏の居館跡の庭園 吉香公園のうらおい

桜や梅、つつじ、ぼたん、藤、花菖蒲、あやめ等の花々と数多くの樹木が生育する緑豊かな環境

まちの由来は江戸時代 吉川氏入封後に築かれた城下町

両岸地域の往来と錦川の水害の歴史を経て誕生した錦帯橋

錦川を外堀に見立て、城山の山頂に要害を築き、麓に居館を構えるなど、天然の要害として巧みに利用した錦川両岸と城山が創り出す地形

錦川右岸に諸役所と上級武家地、左岸に大半の武家地や町屋、寺町を構える都市計画がなされ、その町割は現在までほぼ完全な形で継承

時代とともに変化しながらも受け継がれてきた“まちの姿”

錦川右岸の横山地区は、銀行や税務署等の国家機関が集中後、文教施設の立地・移転を経て、公園を中心に閑静な住宅地へと変遷し、長い時間をかけて形づくられてきた現在のまちの姿

錦川左岸の岩国地区は、金融機関等の公的機関や旅館、商業・サービス施設が集積する岩国市のかつての中心商業地を経て、現在の職住が共存する市街地へと変遷し、時代ごとに特徴ある外観の多くの建物が現在まで受け継がれてきたまちの姿

自然

歴史性

四季折々の自然と歴史を活かし 多くの人を訪れる横山

城山の麓に広がる美しい公園と、個々の敷地における庭木と家なみ等が創り出す閑静な住宅地

地域の拠点性と身近な商業地としての役割を担う岩国

身近な商業地としての歴史性を活かした地域の活力を支える経済活動

職住が共存することにより、時代を超えて少しずつ変化しながらも受け継がれてきた市街地環境

受け継がれてきた文化 地域の祭礼や年中行事

椎尾神社のご神幸やとんど祭り、盆踊り等は、先人たちから変わらず繰り返されてきた地域の文化

現代の暮らしの環境を向上させるために必要な基盤施設や健全なコミュニティの維持や活力づくりにつながる空間整備

特徴ある外観の建築物を活用した新しい経済活動

歴史的な外観と暮らしやすい居住空間の両立

多くの来街者が訪れる観光地や身近な生活拠点であるとともに、多くの人暮らし住宅地

子どもからお年寄りまで安心して歩ける歩行空間の確保と安心して歩きやすい環境

大型バス等に対する合理的な観光動線の構築と河川沿いの道路交通環境の見直し

暮らしの場である生活道路への通過交通の流入防止

回遊を促すため、サイン類や情報発信の拠点施設の整備充実

ゲートエリアと回遊ルートの設定

身近な商業地への来街者の利便を確保

地域外からの車両による交通動線の再構築

営み

住まい

回遊

交通

## 6. まちづくりの目標とテーマ

### (1) 目標

#### 住んでよし、訪れてよしのまち

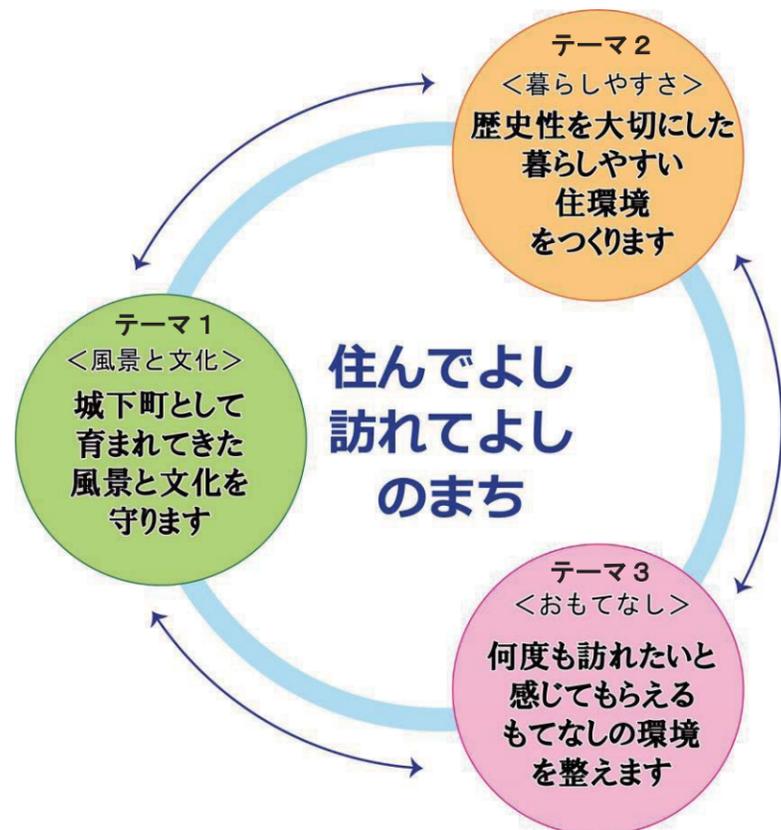
本地域では、清流錦川と山々の自然と、岩国城下町を起源に形成されたまちとして今もなお建物や道、祭事等様々な要素がその面影を見せる歴史・文化がおりなす美しい風景が育まれており、本市のシンボルとして重要な地域です。

その一方で、社会情勢の変化の中で人口減少や高齢化、車社会に対応した住環境の改善も求められています。

このような課題をふまえて、長い歴史の中で育まれてきた地域固有の特徴を活かし、誰もが「住んでよし、訪れてよし」と感じられる魅力あるまちを目指すことを目標とします。

### (2) まちづくりのテーマ

目標の実現に向け、本地域の特徴を活かした魅力あるまちづくりを進めるため、3つのテーマを掲げ、一体的なまちづくりを進めます。



#### テーマ1 / 風景と文化

#### 城下町として育まれて

#### きた風景と文化を守り

#### ます

近世に城下町が形成されて以降、長い時代を経てもなお、私たちは城山と清流錦川、錦帯橋とまちがおりなす美しい風景を見ることができるとともに、風格ある住環境や町屋等が多く残る商業地や寺町、豊かなコミュニティ等を通して城下町として築かれてきた地域の誇りや文化を感じ取ることができます。

これらは、先人たちが、後世へ受け継ぐべき大切なものとして、今日まで守り育んできたものです。私たちは、先人たちの取組を受け継ぎ、後世へ伝えることができるよう、本市を代表する大切な風景と文化を守ります。

#### テーマ2 / 暮らしやすさ

#### 歴史性を大切にしたい

#### 暮らしやすい住環境を

#### つくりたい

本地域では、城下町が形成されて以降、時代とともに経済・社会情勢が大きく変わりながらも、その時代ごとに生き生きとした暮らしの場が築かれ、その痕跡はまちなみや地域活動を通して触れることができます。

その一方で、「まち」が育んできた貴重な建造物を大切に使い続けてきた文化に対する意識や、城下町として多様な機能が集積することによる地域の活力を維持し続けてきた歴史性を感じさせる環境は、誰もが暮らしやすい環境が維持されていなければ、失われてしまうものであり、また一度失うと二度と作り上げることができないものです。

この地域を形づくってきた先人たちの岩国の文化に対する意識や歴史性を大切にしながら、若い世代からお年寄りまでが心地よく安心して住み続けられるよう、今の時代に合った暮らしやすさとバランスのとれた住環境を整えるとともに、地域の経済活動やコミュニティ活動における賑わいの再生につなげます。

#### テーマ3 / おもてなし

#### 何度も訪れたいと感じ

#### てもらえるおもてなしの

#### 環境を整えます

名勝錦帯橋は、岩国城下町をつなぐため独創的かつ伝統的技術を用いた世界に誇る木造アーチ橋です。その美しい形態を有することから毎年多くの観光客を集める重要な観光資源となっていますが、一方で、橋が結ぶ両岸の地域がもつ本来の魅力を十分には活かしきれおらず、来街者の方々に伝えられていません。

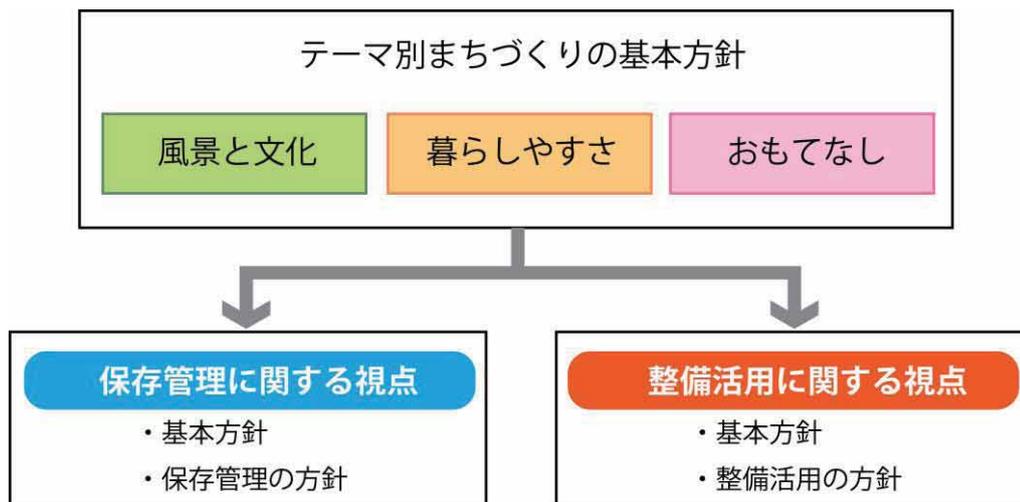
地域がもつ城下町を起源に脈々と受け継がれてきた伝統を本地域から発信しつつ、初めて訪れる人に分かりやすく、多様な楽しみ方を提供する着地型観光への展開をみすえ、何度も訪れたいと感じてもらえるおもてなしの環境を整えます。

## 7. まちづくりの方針

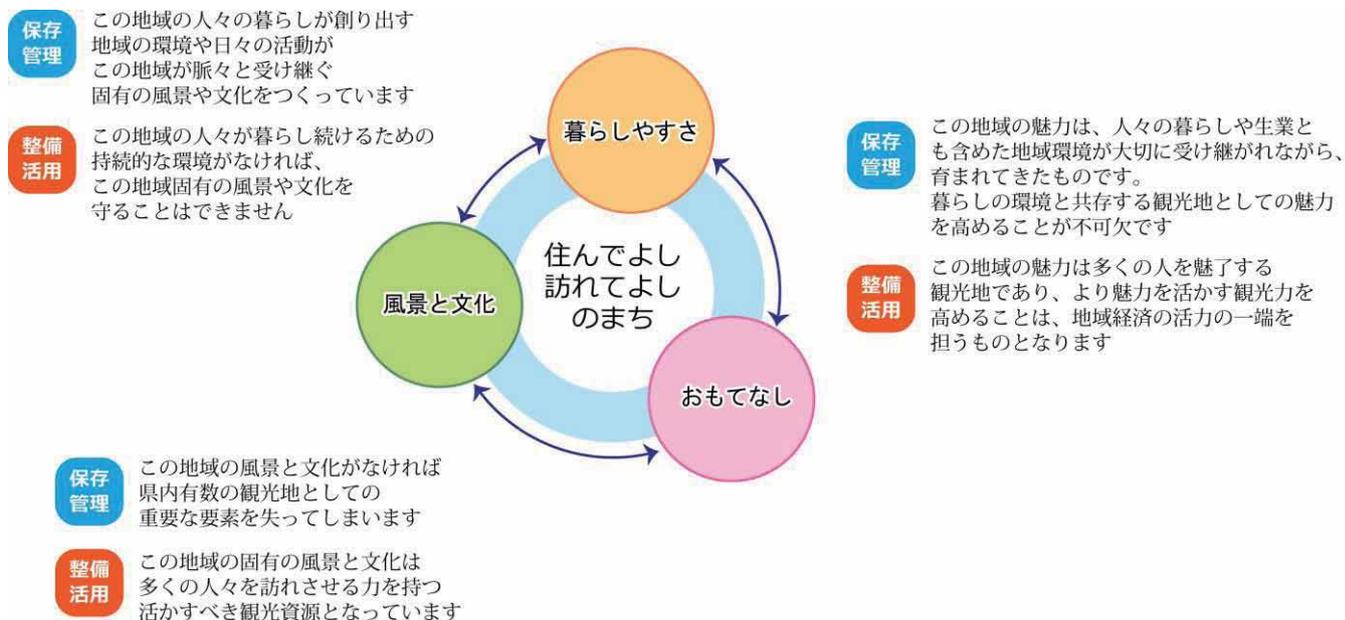
### (1) 視点別のまちづくり方針

「風景と文化」「暮らしやすさ」「おもてなし」の3つのテーマに基づいたまちづくりの実現には、相互の関わりを考えながら取り組むことが必要です。

そのため、テーマ別まちづくりの基本方針をふまえた上で、具体的な方針を自然や歴史、社会活動の観点からみた「保存管理の視点」と、住環境整備や交通環境整備などの「整備活用の視点」に区別して、それぞれの考え方を整理して示します。



テーマと視点別のまちづくり方針の関係



テーマ間での相互関係とまちづくりの視点

## (2) テーマ別のまちづくり基本方針

### テーマ1 / 風景と文化

#### 城下町として育まれてきた風景と文化を守ります

- 多樹種の自然林で形成された城山をはじめ、錦川両岸に広がる山地・丘陵地の樹林地は、本地域の骨格的な自然景観を構成している重要な要素であるため、適切な維持・管理を図るとともに、無秩序な開発等の防止に努めます。
  
- 清流錦川は、豊かな水を湛えながら山間を蛇行し瀬戸内海へ注ぐ本市の骨格的な自然景観を構成するとともに、かつて城下町における天然の要害としての役割を担った歴史性を持っており、本地域の風景を構成する重要な要素です。また、春の花見や鶺鴒飼いが古くから楽しまれているなど、季節を感じさせる地域の文化との関係も深いものです。  
そのため、防災面に配慮しながら、自然環境の保全と本地域の歴史・文化をふまえた、河川景観の保全・形成に努めます。
  
- 錦川両岸のまちは、吉川広家入封後に形成された城下町を起源に、人々が住み、産業に従事し、時代の変化に対応しながら現在の姿が形成されてきました。このまちでは、錦帯橋をはじめとした近世の町割が変わらず継承され、江戸から現代まで時代が変遷するなかで、変わらず残る寺社やそれぞれの時代を象徴する建物などの歴史的資源が多く残されており、まちなみを通して、今、私たちはこの地域が歩んできた歴史や暮らしの文化を知ることができます。  
これらの資源は一度失うと二度と取り戻すことはできない貴重な財産です。これらのものを失わないよう後世へ受け継ぐための方策を検討し、地域の暮らしを豊かにする資源として、積極的な有効活用を図ります。
  
- 本地域では、奴道中や南条踊、大名行列がまちなかを練り歩く錦帯橋まつりを始め、椎尾八幡宮ご神幸や錦帯橋とんど祭、えびす祭りなど、地域の歴史や暮らしの文化とともにある年中行事が受け継がれています。その一方で、地域内では少子高齢化が進んでおり、これらの地域文化の継承が難しくなっているコミュニティも見受けられるようになってきました。  
これまで継承されてきた年中行事をこれからも続けていくことができる環境を整えるとともに、それらが似合う地域環境の保全に努めます。

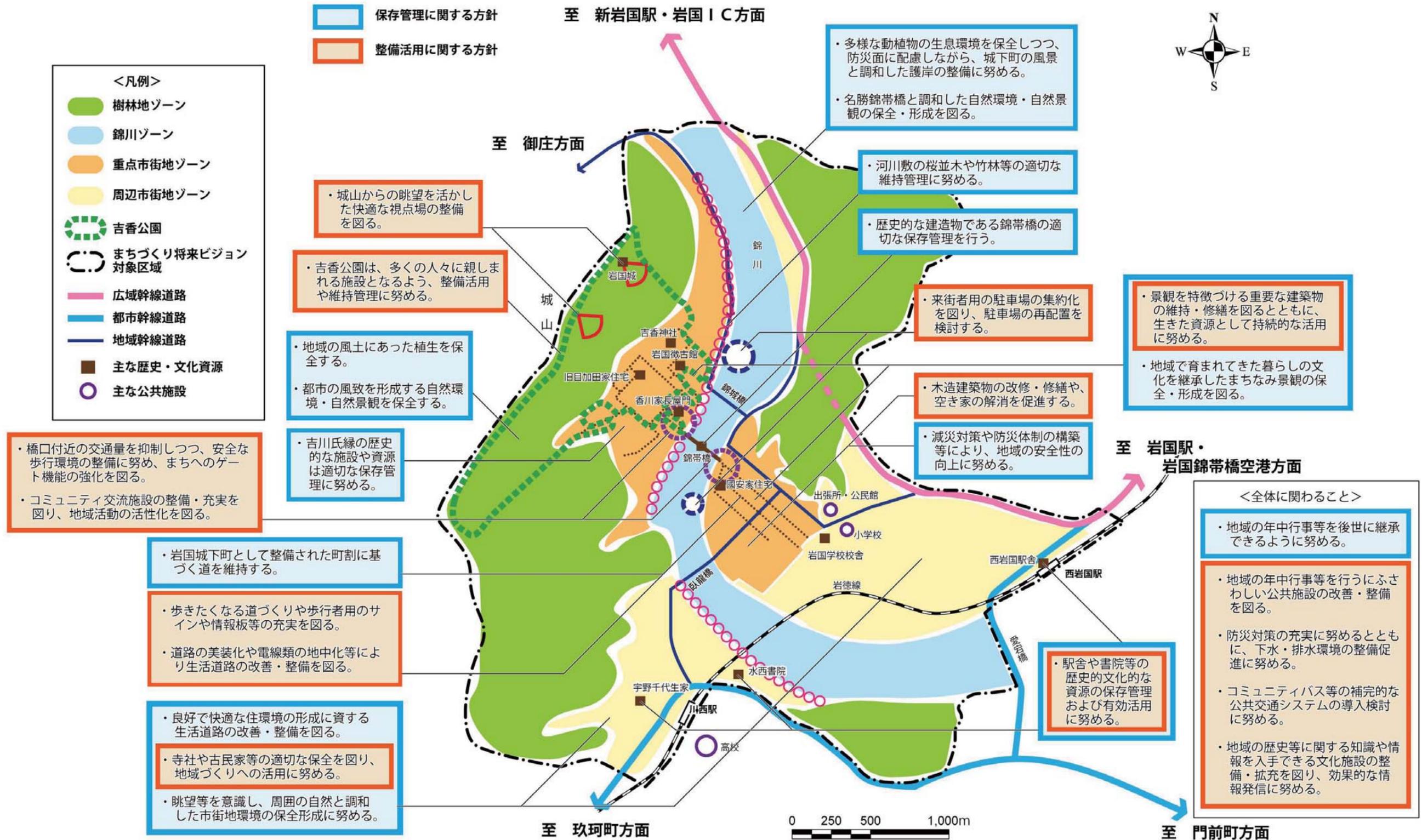
## 歴史性を大切にしたい暮らしやすい住環境をつくれます

- 少子高齢化と人口減少傾向にある本地域では、身近な道路や公園、下水・排水施設など暮らしを支える都市基盤施設の整備・改善を進めるとともに、新たな若い世代の居住を促進するなど、ゆるやかに世代交代が進むことによる地域コミュニティの活力維持につながる取組が必要です。  
そのためには、安心して住み続けられる住まいづくりにつながる住宅施策と基盤整備の両面に取り組み、良好な住環境の形成を図ります。
- 歴史的なまちなみは趣のある独特の魅力を創り出している一方で、狭い道路に沿って木造建築物が集積しているため、防災性を高める必要があります。そのためには、伝統的な技術の活用による地域の歴史性と持続可能な住環境とがバランスのとれた整備に取り組みます。また、災害が起きた際の安全な避難路や一次避難地となる空間の確保など、地震や災害に強いまちなみの整備に努めます。
- 城下町としての歴史性を顕著に受け継いでいるまちでは、街区を構成する道とそこに建つ家や店舗等の建物や門、塀等の外観が一体となって、風情あるまちなみが形成されています。また、長い歴史の中においてこの地域で育まれてきた文脈（物語）を今に伝える地名や場所など、多くの文化的資源を見ることができます。  
歴史性は、このまちがどのようにこれまで生きてきたかを今に伝える証であり、このまちの持つ個性や魅力と切り離せない地域のアイデンティティを支えるものです。これまで育まれてきた地域の歴史性をふまえ、人々が心地よく暮らせるまちなみの保全に努めます。
- 岩国地区では、地域の拠点を担ってきた商業地としての基盤を活かし、地区内及び周辺市街地の人々の生活サービスを支えることのできる身近な商業地としての機能の充実を図るとともに、利用しやすい交通環境の整備に努めます。

## 何度も訪れたいと感じてもらえるおもてなしの環境を整えます

- 錦帯橋及び吉香公園周辺は、すでに多くの観光客が訪れる県内有数の観光地である一方で、地域の魅力を創り出している資源を十分に活かしきれておらず、広域的な観光ルートの中において通過型の観光拠点となってしまっています。  
その改善のために、季節を感じさせる自然や吉川氏縁の歴史的な資源、伝統的な技術や地域に縁ある人物・食などの文化的な要素等、個々の資源に磨きをかけることにより、地域全体での観光地としての魅力を高めるよう努めます。
  
- 本地域では、特定の資源を見ることだけではなく、訪れた地で過ごした時間を楽しむことができた、何度も訪れたいと感じてもらえるおもてなしの環境を整えます。  
そのために、両岸地域で異なる城下町の楽しみ方などの地域固有の魅力を、地域自らが訪れた人々に分かりやすく伝えたり、再び訪れてみたいと思わせたりする工夫に努めるなど、迎え入れる地域自らが主体的に発信する着地型観光に向けて取り組み、多くの人々が訪れ楽しく回遊できる滞留型の観光拠点の形成を目指します。
  
- 錦帯橋の往来と錦川沿いの自然景観、両岸地域のまちが持つ魅力を最大限に活かすには、市内の広域交通拠点から本地域へのアクセスを支える動線と迎え入れるゲート機能を担う交通施設のあり方、地域内での回遊を支える交通環境のあり方を含めた検討が不可欠です。  
サイン等によるソフト面での誘導方策から新たな施設整備等のハード面での環境整備も含め、回遊性を高めるための総合的な交通環境づくりに努めます。

(3) 錦川両岸地域まちづくり構想



## ①保存管理に関する視点 ― 守り・伝えることに関する考え方 ―

### 【保存管理に関する基本方針】

城下町として育まれてきた風景と文化について、自然、歴史、社会活動の3つの視点からみた保存管理に関する基本方針は以下のとおりです。

### ■自然に関する視点から

本地域の骨格的な自然景観は、穏やかな水の流れを湛えながら山間を緩やかに蛇行し瀬戸内海へと川幅を広げながら注ぐ、錦川の水辺と葦、河川敷が創り出す自然美にあります。さらに、川岸の美竹林や桜並木、背後にそびえる城山をはじめとした自然林などの植生が四季折々の彩を創り出しています。

したがって、これらの自然景観の保存管理にあたっては、防災面に配慮しつつも、護岸形態や水辺の環境、自然植生等において、錦川や城山の特徴に沿って維持管理されるよう保全・整備に努めます。

また、錦川の夏の風物詩として知られる鵜飼いは、近世から伝わる伝統漁法であり、この文化的財産を後世に継承するためにも水質の保全に努め、鮎等の生息環境を保持できる河川環境の保全に努めます。

さらに、錦川右岸に位置する吉香公園では、かつての藩主吉川氏の居館跡の庭園として親しまれてきたことから、昭和に入り都市公園としての整備が進められ、現在では、桜や梅、つつじ、ぼたん、藤、花菖蒲、あやめ等の花々と数多くの樹木が生育する緑豊かな環境が形成されています。今後も、地域の風土に配慮しながら良好な自然的景観の保全に努めます。

### ■歴史に関する視点から

本地域の歴史的特性は、江戸時代に吉川氏が入封した後に築いた城下町に由来します。錦川を外堀に見立てて、城山の山頂に要害を築き、麓に居館を構えるなど、錦川兩岸と城山が創り出す地形を天然の要害として巧みに利用しています。また、錦川右岸に諸役所と上級武家地、左岸に大半の武家地や町屋、寺町を構える都市計画がなされ、その町割が現在までほぼ完全な形で継承されています。また、城下町として栄えるとともに、兩岸地域の往来と錦川の水害の歴史を経て錦帯橋が誕生し、現在まで修復整備を繰り返しながら地域を代表する資源となっています。

さらに、近代に入り、家中や武家地が中心であった錦川右岸の横山地区には、銀行や税務署等の国家機関が集中した後、文教施設の立地・移転を経て、都市公園を中心とした閑静な住宅地へと変遷し、現在の町並みが形成されています。一方で、近世には町屋を中心として栄えた岩国地区は、近代に入ると金融機関等の公的機関や旅館、商業・サービス施設が集積する岩国市のかつての中心商業地を経て、現在の職住が共存する市街地環境が形成されています。そのため、時代ごとに特徴ある様式を有する店舗や住宅等の建造物が多く残っており、往時のにぎわいを今に伝えています。

## ①保存管理に関する視点 ー守り・伝えることに関する考え方ー

これらのまちが時代の変遷とともに積み重ねてきた歴史性を保存管理するにあたっては、城下町として築かれ、現在まで受け継がれている町割に基づく道を維持することが不可欠です。これは、錦川と城山が創り出す地形と土地利用の関係性により築かれ、現在まで受け継がれてきたものです。ゆえに、本地域の風景と文化を守りながら都市整備を進める上では、町割に基づく道等、地域固有の空間を維持できるよう努めることが必要です。

また、本地域内には、城下町としての歴史やその後の繁栄を今に伝える建造物等の資源も数多く残されており、伝統的な技術と現代の技術の両面から、減災対策も視野に入れながら個々に適切な保存及び積極的な活用も含めた管理に努めることが必要です。

### ■社会活動に関する視点から

本地域の社会的観点からみた特徴は、錦川兩岸地域のそれぞれのまちの特性に違いがあることです。なかでも、吉川氏の居館から四季折々の自然や歴史的資源を活かし、都市公園化され、歴史的建造物である錦帯橋の渡橋とともに多くの人々が訪れる観光地へと変遷する横山地区に対し、近世の町屋を起源に暮らしを支える生業が受け継がれながら、時代の変遷とともに、周辺市街地まで含めた拠点性を担う商業地として発展し、本地域の経済社会活動を牽引してきた岩国地区では、持続可能なまちとしての視点が異なるといえます。

横山地区では、城山の麓に広がる美しい公園と、個々の敷地における庭木と家なみ等が創り出す閑静な住宅地としての景観を保全・形成することが、持続的な地域環境の保存・管理につながるため、景観保全と住環境の適切な保全が必要です。

一方で、岩国地区では、生活様式の変化や事業者の高齢化による後継者不在等を背景とした商業活動の衰退と、それに伴う土地利用や建物利用の変化が生じており、これまで受け継がれてきたまちなみの変化として現れつつあります。本地区は、職住が共存することにより地域の活力や市街地環境が維持・形成されてきたことが個性であることから、職住一体型から職住共存型による市街地環境への転換を視野に入れることで、地区全体としての居住の維持と新たな経済活動のバランスがとれた、持続可能な地域環境の形成につなげていくことが必要です。

また、椎尾神社のご神幸やとんど祭り、盆踊り等の地域の年中行事は、安定した地域社会を維持していくための重要な機会として継承されてきたが、現在は、地域内の人口構成の変化や担い手の減少等が目立ち、今後は、それらの開催にも不安を生じることもしばしば起ります。これらの年中行事等に関しても、細やかな目を向けて継承できるよう新たな地域活動を支えるシステムを構築するための検討も必要です。

## 【ゾーン別の保存管理に関する方針】

保存管理に関する基本方針をふまえ、ゾーン別の保存管理の方針を示します。

### ■樹林地及び錦川ゾーン（名勝錦帯橋を含む）

- 城下町としての風景を形成する城山をはじめとする山地・丘陵地では、地域の風土にあった植生を保全するとともに、都市の風致を形成する自然環境・自然景観の保全を図ります。
- 豊かな水を湛える清流錦川は、水質保全に努めるとともに、多様な動植物の生息環境を保全しつつ、防災面に配慮しながら、城下町の風景と調和した護岸の整備に努めます。
- 河川敷では、錦川自体の水辺が本来持っている自然景観の美しさを安心して楽しむことができる空間を確保するとともに、名勝錦帯橋と調和した景観の保全・形成を図ります。
- 河川敷の桜並木や竹林等は、特徴ある錦川の景観を形成する重要な要素として、適切な維持管理に努めます。
- 歴史的な建造物である錦帯橋は、世界に誇る伝統的な技術を有する建造物であるとともに、錦川兩岸にわたる城下町の発展の歴史性を今に伝える重要な資源として、適切に保存管理を行います。

### ■重点市街地ゾーン

- 岩国城下町として整備された町割に基づく道は、本地域の歴史性や暮らしの文化を今に伝える重要な要素として維持するよう努めます。
- 吉川氏縁の歴史的な施設や資源は適切な保存管理に努めます。
- 岩国地区では、木造建築物と近世の町割をベースとした狭あいな生活道路の中での伝統的な技術等を活用した減災対策や防災体制の構築等により、地域の安全性の向上に努めます。
- 地域の年中行事等は、城下町としての歴史性を背景に、地域の暮らしの中で育まれてきた無形文化を象徴する重要な要素として、後世へ大切に継承できるように努めます。
- 近世以降、それぞれの時代や重層的な歴史的変遷過程等の特徴づける建造物は、地域が歩んできた暮らしの文化を今に伝える重要な資源であり、また本地域の景観を特徴づける重要な要素として、維持・修復により適切に保全を図るとともに、生きた資源として積極的かつ持続的な活用に努めます。
- 城下町としての歴史性を顕著に残している特徴を活かし、地域で育まれてきた暮らしの文化を継承したまちなみ景観の保全・形成を図ります。

## ■周辺市街地ゾーン

- 西岩国駅舎や水西書院、宇野千代生家等の歴史的文化的な資源は、適切に保存管理するとともに、本地域の資源として有効活用に努めます。
- 地域に古くからある寺社や古民家等は、城下町として形成された市街地の記憶を今に伝える資源であり、地域の景観を印象づける重要な要素として、適切に保全を図りつつ、魅力ある地域づくりへの活用に努めます。
- 錦川兩岸のまとまりある風景を形成する一地域であることをふまえ、河川沿いや臥龍橋、岩徳線等からの眺望等を意識しながら、周囲の自然と調和した市街地環境の保全形成に努めます。
- 車と歩行者の安全性と快適性を確保できるよう、良好で快適な住環境の形成に資する生活道路の改善・整備を図ります。

## ②整備活用に関する視点 ーつくり・活かすことに関する考え方ー

### 【整備活用に関する基本方針】

城下町として育まれてきた風景と文化や暮らしやすさ、おもてなしの心を高めるために、住環境整備、交通環境整備、回遊促進の3つの視点からの整備活用に関する基本方針は以下のとおりです。

### ■住環境整備の視点から

本地域は、近世の町割を基盤に、一部、木造家屋による歴史的なまちなみが残るなど、城下町の歴史性を受け継いでいる一方で、安心して快適に暮らし続けられる基盤施設の整備が遅れていることも否めません。

歴史性を大切にしつつも、現代の暮らしの環境を向上させるために必要な基盤施設や健全なコミュニティの維持や活力づくりにつながる空間整備が必要です。

また、歴史的な外観と暮らしやすい居住空間の両立や、特徴ある外観の建築物を活用した新しい経済活動などに取り組むことにより、地域の歴史性を背景としたここにしかない特徴を活かし、日常生活を豊かにする市街地環境の形成にむけ、地域と行政が協力・連携しながら、創り出していくことが必要です。

### ■交通環境整備の視点から

本地域は、重点市街地ゾーンを中心に、多くの来街者が訪れる観光地や身近な生活拠点であるとともに、多くの人が暮らす住宅地でもあります。吉香公園や身近な商業地である岩国地区への地域外からの車両による交通動線の再構築を図り、暮らしの場である生活道路への通過交通の流入防止を図るとともに、身近な商業地への来街者用の利便を確保する一時駐車場等の確保及び整備に努めます。

また、地域内には小学校や公共施設が立地しており、子どもからお年寄りまで安心して歩ける歩行空間の確保と安心して歩きやすい環境整備に努めます。

### ■回遊促進の視点から

大型バス等でアクセスする観光客に対しては、両岸地域の魅力を最大限楽しむことができるよう、降車スペースの確保と、大型バスの駐車場の再配置等により、合理的な観光動線の構築に努めます。

錦帯橋の渡橋と両岸地域のまちへの安全かつスムーズな歩行者動線の確保のため、河川沿いの道路交通環境の見直しを図ります。

地域内のスムーズな回遊を促すため、サイン類の充実を図りつつ、歩きたくなる道の環境整備等を進めるとともに、手軽にまちの楽しみ方を入手できる情報発信の拠点機能を担ったビジターセンター等の整備を検討するなど、ゲートエリアと回遊ルートが一体となった環境整備に努めます。

## 【整備活用方針】

- 重点市街地ゾーンを中心に、城下町の歴史性を顕著に残すなど、特徴ある外観を有する古民家等の木造建造物の魅力を活かしつつ、快適な居住空間への再生等につながる改修・修繕や、空き家の解消を促進し、積極的な利活用に努めます。
- 道路の美装化や電線類の地中化等により、安心して快適に歩きたくなる歩行環境の整備を図るとともに、良好で快適な住環境の形成に資する生活道路の改善・整備を図ります。
- 地域全体における防災対策の充実に努めるとともに、下水・排水環境の整備促進に努めます。
- 地域住民の活発な交流を促すことに資するコミュニティ交流施設の整備・充実に図り、顔の見える地域活動の活性化を図ります。
- 地域に長く伝えられている年中行事等を行うにふさわしい公共施設の改善・整備を図ります。
- 錦帯橋と兩岸のまちを安全に回遊できるよう、橋口付近の交通量を抑制しつつ、安全な歩行環境の整備に努め、まちへのゲート機能の強化を図ります。
- 来街者用の駐車場の集約化を図るとともに、地域全体の回遊性の向上につながる大型バス等の駐車場の再配置に関して検討します。
- 地域内の観光客や地域内住民の回遊を促進するため、コミュニティバス等の補完的な公共交通システムの導入検討に努めます。
- 歴史・文化資源である建造物を活かし、観光客等の来街者に対する総合的な情報提供の空間（ビジターセンター）や地域の歴史や文化に関する知識・情報を入手できる文化施設の整備・拡充を図り、初めて訪れた人に対して、地域主導の着地型観光に関する効果的な情報発信に努めます。
- 来街者や観光客の回遊性を促す情報発信の工夫に努めるとともに、歩きたくなる道づくりや歩行者用のサインや情報板等の充実に図ります。
- 吉香公園は、より多くの人々に親しまれる魅力的な施設となるよう、整備活用や維持管理に努めます。
- 城山から城下町の眺望を楽しめる視点場の整備を図ります。
- 近世以降、それぞれの時代や重層的な歴史的変遷過程等の特徴づける建造物は、地域が歩んできた暮らしの文化を今に伝える重要な資源であり、また本地域の景観を特徴づける重要な要素として、維持・修復により適切に保全を図るとともに、生きた資源として積極的かつ持続的な活用に努めます。
- 西岩国駅舎や水西書院、宇野千代生家等の歴史的文化的な資源は、適切に保存管理するとともに、本地域の資源として有効活用に努めます。
- 地域に古くからある寺社や古民家等は、城下町として形成された市街地の記憶を今に伝える資源であり、また本地域の景観を印象づける重要な要素として、適切に保全を図りつつ、魅力ある地域づくりへの活用に努めます。

## 8. まちづくりの実現にむけて

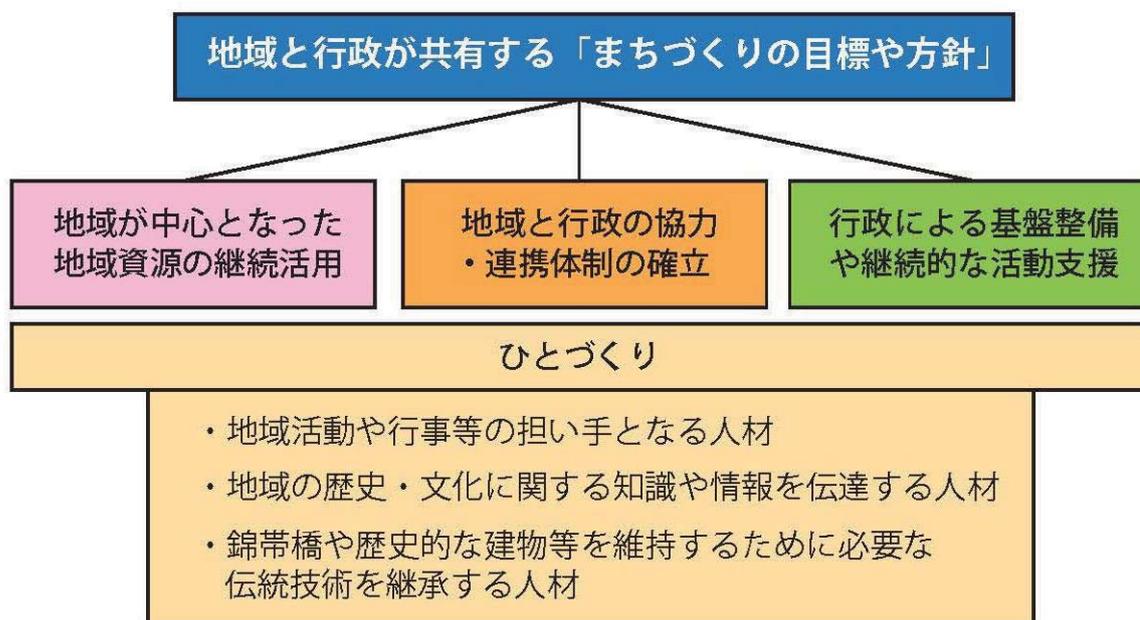
### (1) まちづくりの主体と役割

本地域で掲げたまちづくりの方針の多くは、行政のみでは実現が不可能です。地域の風景や文化を継承するためには、持続可能な地域環境づくりが不可欠であり、これは、地域の主体的かつ継続的な活動と、行政によるサポートや必要な基盤整備が一体となって初めて成り立ちます。

地域の魅力を構成する資源は、その地域の人々が積極的に活用してこそ、結果として持続的な維持管理にもつながります。地域と行政が、目標やまちづくりの方針を共有しつつ、持続的な協力・連携体制のもと、長期的視点を持ちながら、1つ1つを実現させていくことが、持続可能なまちづくりには重要な視点と考えます。

また、本地域の特徴である城下町としての歴史・文化の継承には、地域の多様な活動や伝統的行事等の担い手となる人材育成と確保につながる取組に加え、歴史・文化に関する知識や情報を伝達する人材や、錦帯橋をはじめとした伝統的様式による建造物等の維持のために必要な伝統技術を継承する専門家の育成も重要な視点であり、本地域に合った官民協働のまちづくりの実現を目指すことが必要であると考えます。

そのためには、地域のまちづくりを支えるひとづくりも重要な取組となります。



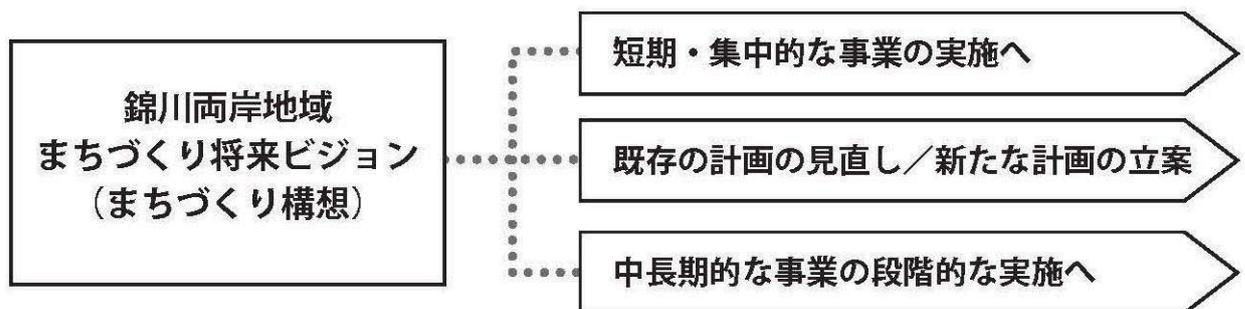
## (2) 協働による推進体制

官民協働による持続可能なまちづくりに向けて、住民・事業者・行政等の関係者が意見交換を重ねながら推進体制を検討します。

## (3) まちづくりの実現化方策

本地域におけるまちづくりの実現には、テーマに沿って個別に進める上で、錦川両岸地域全体を見据えながら取り組んでいく必要があるものを全体スキームとして、分野別に整理します。

さらに、本地域の特徴を顕著に示す重点市街地ゾーンについては、重点的かつ集中的に取り組んでいく必要があることから、官民の役割分担をふまえた行動計画（案）として具体的な施策と手法例を定めることで、実施に向けた一定の方向性を示します。



## ①事業計画

特徴を活かしたまちづくりの実現に向け、分野別プログラムのイメージを示します。

短期 (概ね5年程度)	中期 (概ね10年程度)	長期 (概ね20年以上)
重点市街地の市街地環境整備	(街なみ環境整備事業)	
森林の持続的な管理・維持に関する計画の見直し・実施		
河川に関する計画の見直し・河川環境・景観の保全・整備		
景観の保全・形成の 仕組みづくり	景観に配慮した公共事業等の実施 景観計画によるきめ細やかな景観の誘導	
文化的価値の評価	文化財保護制度による景観資源等の保存	
都市計画の見直し検討 (地域地区, 都市施設)	土地利用の適正管理	
生活道路の改善に向けた 仕組みづくり	道路の改善・整備 下水・排水施設の改善・強化	
下水・排水環境の改善に 向けた検討		
住宅施策に関する計画検討	地域住宅交付金制度等による住宅改修支援	
防災施策に関する計画検討	防災施設の強化、地域防災体制の充実	
交流促進に向けた施設 の検討	交流施設や文化施設等の整備・充実	
総合的な交通体系の検討	交通関連施設の整備	
観光振興に関する計画検討	観光振興に向けた個別事業の実施	
公共施設における適切な維持・管理		
官民協働の仕組みづくり	継続的な活動	

## ②重点市街地ゾーンにおける行動計画

城下町の歴史性を顕著に残し、周辺地域の拠点機能を担う重点市街地ゾーンにおいて、主体及び手法について行動計画として整理します。

【●行政主体 ○住民主体】

### ■持続可能な住環境の形成と歴史性を大切にしたまちなみの保全にむけて

施策	手法例等
地域の歴史性を継承するまちなみの保全形成や土地の使い方に関するルール化と運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●景観計画に基づく景観形成方針及び基準の設定</li> <li>●風致地区の区域及び基準などの見直し</li> <li>●公共施設における景観配慮と修景事業の実施</li> <li>●都市計画道路の見直し</li> </ul>
地区内への新たな居住者、事業者を誘致するシステムづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○賃貸物件の把握と不動産の斡旋</li> <li>○転入者の受け入れ相談窓口となる体制づくり（NPO 法人化等）</li> <li>●助成等の検討</li> </ul>
地域による主体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運営・協議の体制づくり</li> <li>●体制づくりに向けた支援</li> <li>●運営に対する技術的な支援</li> </ul>
空き地・駐車場等の集約化とまちなみ形成に向けた利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域における共同管理・運用</li> <li>●街なみ形成に向けた修景助成</li> </ul>
電線類の地中化や美装化による歴史的な道の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●街なみ環境整備事業による環境整備</li> <li>●地域住宅交付金制度等の確立</li> </ul>
歴史的な建造物等を活かした交流施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流施設の管理運営</li> </ul>
まちなみ整備を牽引するモデル的な改修事業の実施	
古民家の再生と活用	
まちなみ形成に向けた主体的な修理・修景の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既存古民家等の修理・修景の実施</li> <li>●街なみ基準に基づく助成</li> </ul>
歴史的な建造物の保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別物件への歴史・文化的な価値評価（調査）</li> <li>●文化財保護制度の適用の検討</li> </ul>
生活基盤施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●下水・排水施設の早期整備と事業実施までの代替措置等の検討</li> </ul>
災害に強い地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●防災施設の強化・充実</li> <li>●まちなみ保全と連携した地域防災計画の策定</li> <li>○地域防災体制の構築</li> </ul>

■道路交通環境の改善と回遊性の向上にむけて

施策	手法例等
地域幹線道路の交通環境の整備	●路上駐車対策の検討
来街者用一時駐車場の整備	○商業関連施設による共同駐車場の確保
車両及び歩行者に対する誘導サインや情報掲示板の整備	●街なみ環境整備事業による環境整備 ●観光用駐車場の整備
歴史的な道を活かした魅力ある道づくり	
観光バス用の降車スペースと、乗車スペースを含む駐車場の再配置に向けた検討と整備	
コミュニティバス等の導入に向けた検討	●コミュニティバスの活用等 ●西岩国駅及び川西駅の駅前広場の整備
地域資源を活かした回遊促進を誘導するコンテンツの拡充・整備	○個店の魅力向上と地域ブランドづくり ●歴史・文化的な資源を活かした文化・教育施設（ミュージアム）の整備 ○観光ボランティアによるまちあるきツアーの充実

錦帯橋を中心とした錦川両岸地域のまちづくり将来ビジョン 平成 26 (2014) 年 4 月

---

発 行／岩国市

編 集／岩国市都市建設部拠点整備推進課交流拠点整備班

〒740-8585 岩国市今津町 14-51

TEL (0827) 29-5163 FAX (0827) 24-4207

<http://www.city.iwakuni.lg.jp>

[kyoten@city.iwakuni.lg.jp](mailto:kyoten@city.iwakuni.lg.jp)

編集協力／株式会社エスティ環境設計研究所